ワシントンで働く女性の会（J-WIP）第35回 活動報告

企画担当理事



2026年9月28日、ワシントンDCで働く女性を応援するJ-WIP（※）の第35回スピーカーイベント「“Navigating the U.S. AI Policy Landscape: U.S. Business Perspectives and Responses”（米国AI政策の動向を読み解く：米国企業の視点と対応）」を開催しました。

当日は、200社以上の米国大手企業CEOがメンバーのビジネスラウンドテーブル（BRT）でテクノロジー・イノベーション担当バイスプレジデントを務めるエイミー・シュアート氏を講師として迎え、米国のAI政策を取り巻く最新動向や、産業界における関心事項等について幅広くお話を伺いました。会場には商工会会員・非会員約35名が参加し、シュアート氏と活発な意見交換を行いました。

シュアート氏は、テキサス大学オースティン校で公共政策修士号を取得した後、連邦政府の代表的なリーダーシップ育成・採用プログラムである大統領管理フェロー（Presidential Management Fellow）として社会保障局（SSA）でキャリアをスタートさせ、下院歳入委員会で長年にわたり政策立案に携わってこられました。その後、英国発のテクノロジー企業Onfidoで米政府渉外機能の立ち上げを担い、2023年にBRTへ参画されました。



本イベントではまず、シュアート氏が政策分野からテクノロジー企業、さらに業界団体へと活動の場を広げてこられたキャリアの経緯について紹介されました。CEOの声を代表するBRTの特徴的な運営体制などが共有されるとともに、多種多様な分野でキャリアを築くうえで示唆に富むお話を伺うことができました。

続いて、米国のAI政策をめぐる議論に話題が移りました。技術および政策を取り巻く環境が進化する中、シュアート氏は、AIに関するBRTの見解や、米国政府およびその他のステークホルダーとの継続的なエンゲージメントについて説明されました。また、キャリアを築く上で必要なスキル、覚悟、人脈作りなどについて貴重なアドバイスをいただきました。

今回のイベントは、米政権の方針に加え、本年11月の中間選挙後の連邦議会や州政府の動きなど、刻々と変化する情勢を把握し、各企業や関係団体が政策当局と対話を重ね、国際的な連携を築いていく重要性を改めて認識する機会となりました。

（注）当イベントは原則オフレコでしたが、講師の了承を得た情報を盛り込んでいます。

※ J-WIP（Japanese Women in the Professions in Washington DC）：ワシントン地区で働く日本女性へのキャリア育成支援活動。2016年1月から、ワシントン日本商工会として支援

JCAW Copyright © 2026 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。